

2008年度冬学期 学術俯瞰講義 グローバル化する社会に生きる

経済のグローバル化とひとびとの暮らし
「変わる労働市場：多様化する働き方」

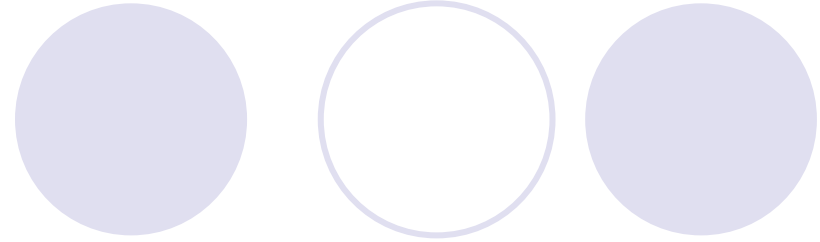
2009年1月15日(木)

白波瀬佐和子(文学部・社会学)

グローバルな金融危機の波及効果

- 経済がつながっていることの実感
- 経済の悪影響を受ける程度やタイミングの違い
- 実際の生活をする場は国単位。
- 経済効果はグローバルであるが、実際の生活の場は国であり、ひとびとの生活を保護、保障されるのは国をベースとした制度

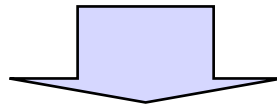
タイミングと程度



- だれが職を失うのか
- だれが先に職を失うのか
- どこに経済のひずみが深まるのか
- 金融危機の影響を真っ先に受けるのはどこか

今日のテーマ

- 正規/非正規問題に着目した働き方の多様化
- 就労の多様化が意味するところ

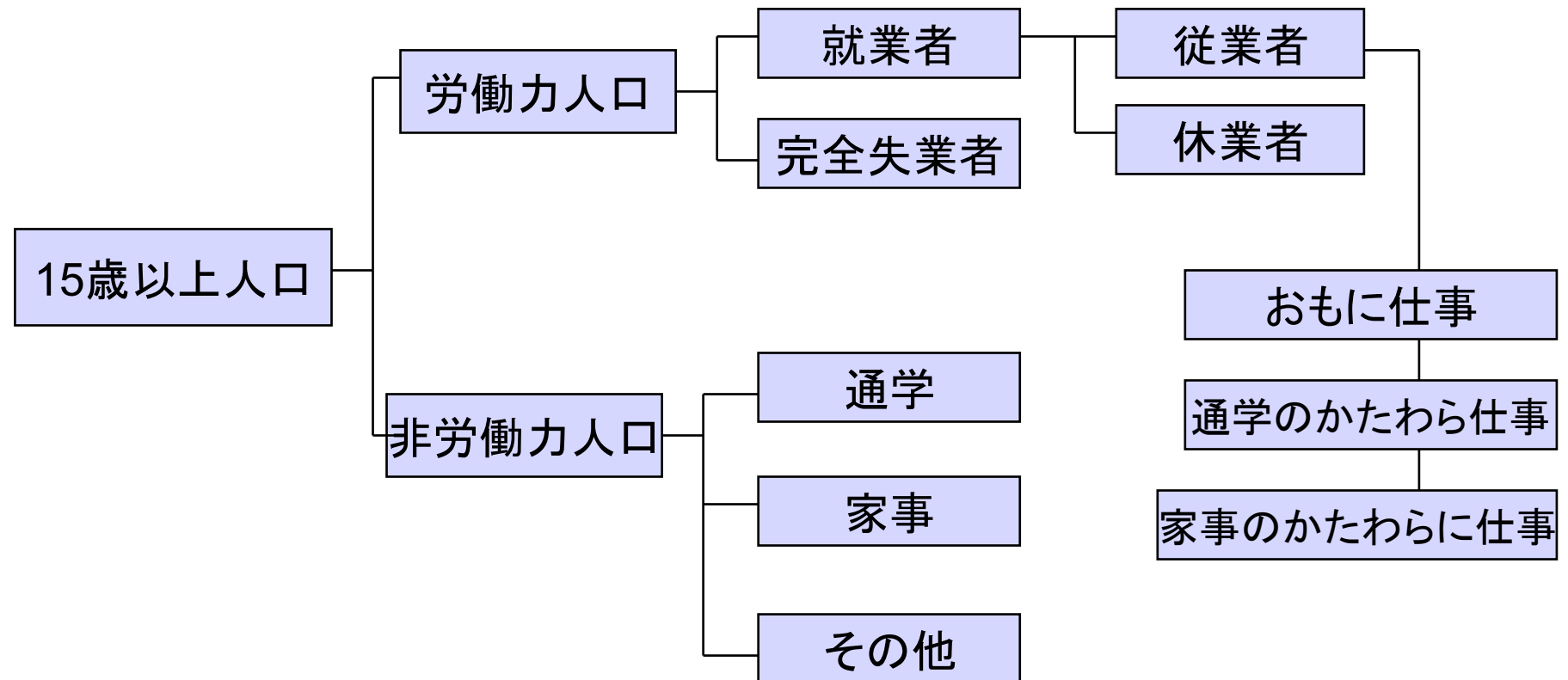


正規以外の働き方が増えることの意味

多様化のもつ意味

多様な働き方と労働市場の流動化との関係

労働力人口とは？



「労働力調査」(総務省)

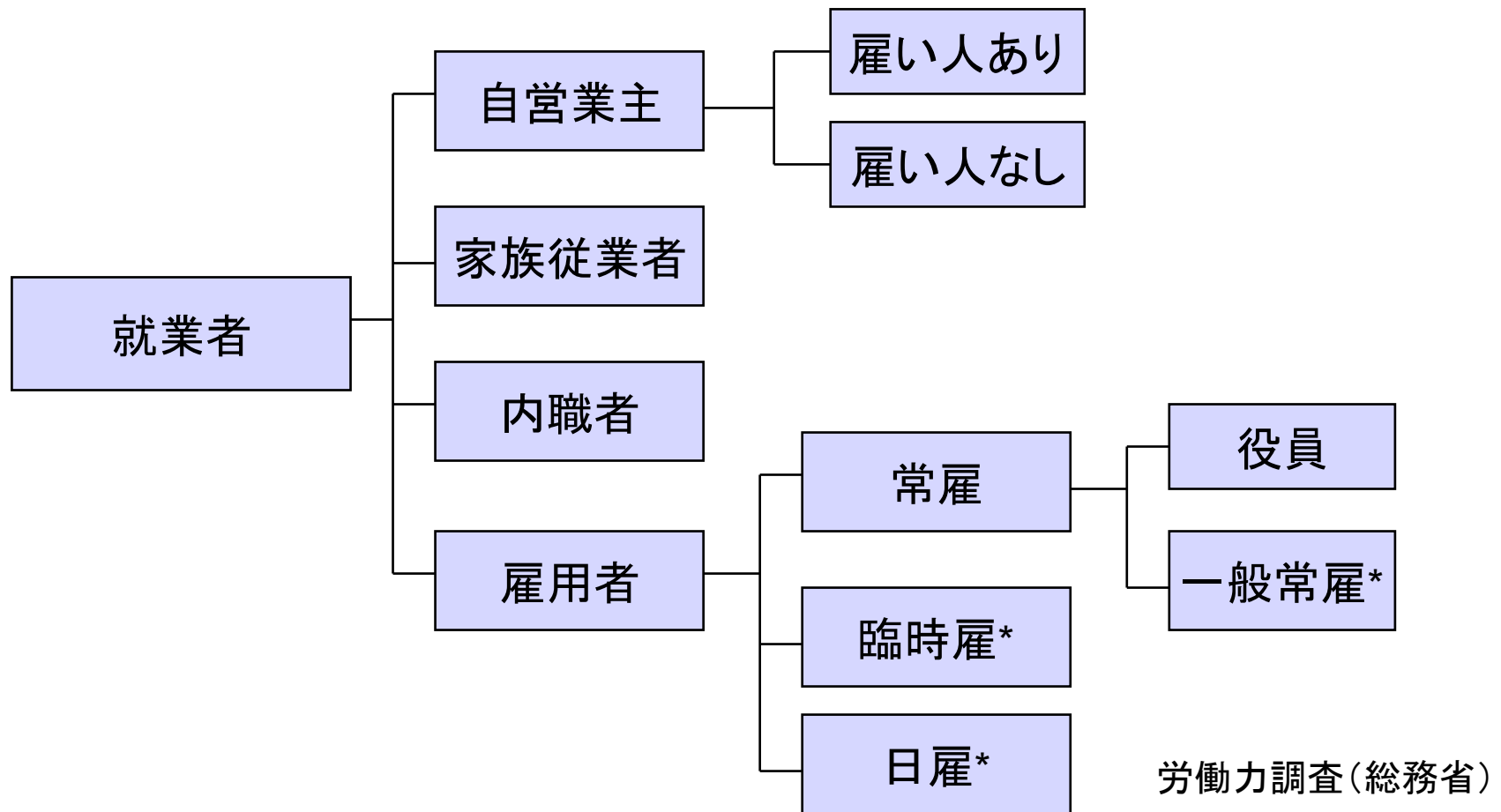
完全失業者

- 3つの条件をすべて満たすもの

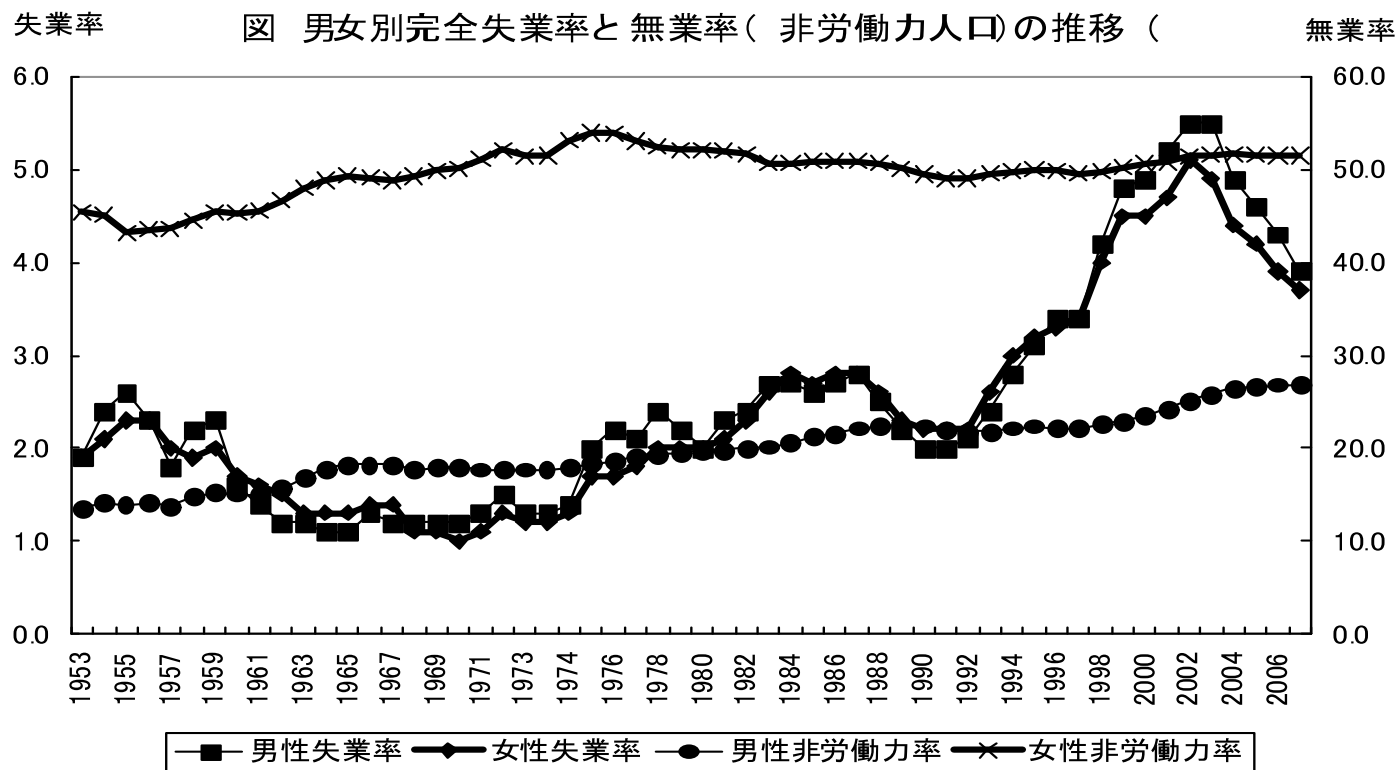
1. 仕事がなく調査期間中少しも仕事をしなかった.
2. 仕事があればすぐ就くことができる.
3. 調査期間中に、仕事を探す活動や事業を始める準備をしていた(過去の求職活動の結果を待っている場合を含む).

$$\text{完全失業率} = (\text{完全失業者数} \div \text{労働力人口}) \times 100$$

就業者の従業上の地位

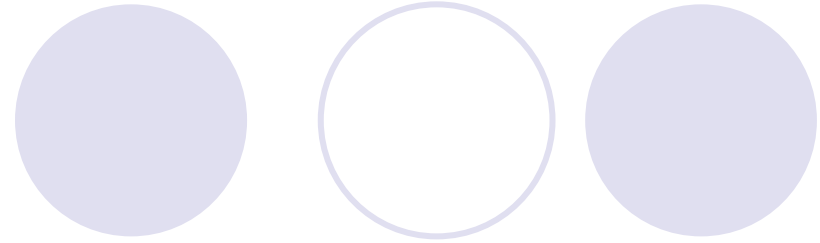


バブル崩壊後、急激に上昇した失業率と比較的安定している非労働力人口



出所) 労働力調査(総務省)

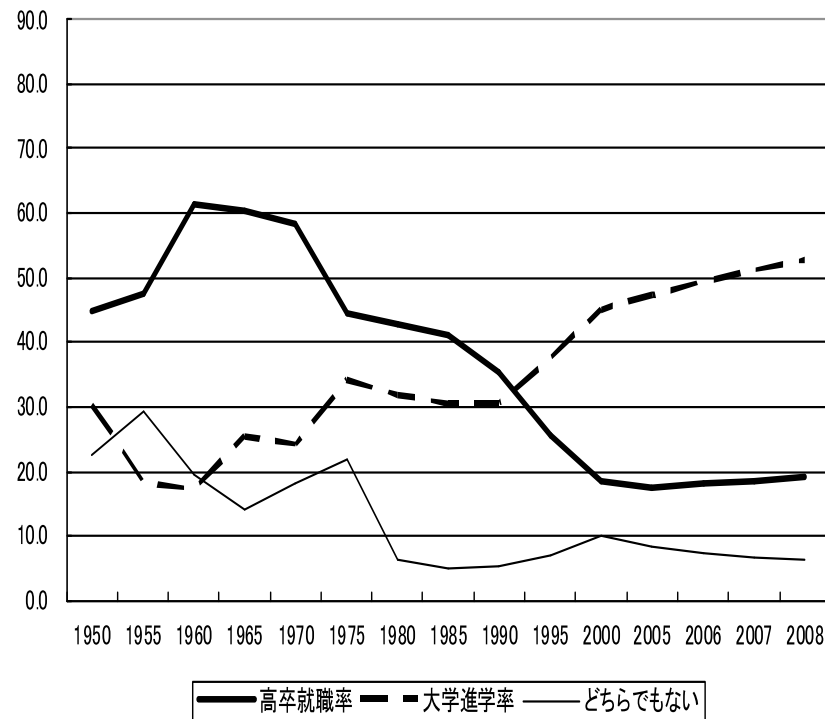
何の多様化か？



- 就労開始時期のズレ
学歴達成から労働市場への移行が複雑化
- 職歴パターン（継続就労か、断続的就労か）
- 働き方（就労形態）の変化

高学歴化と高学歴取得の意味の変化

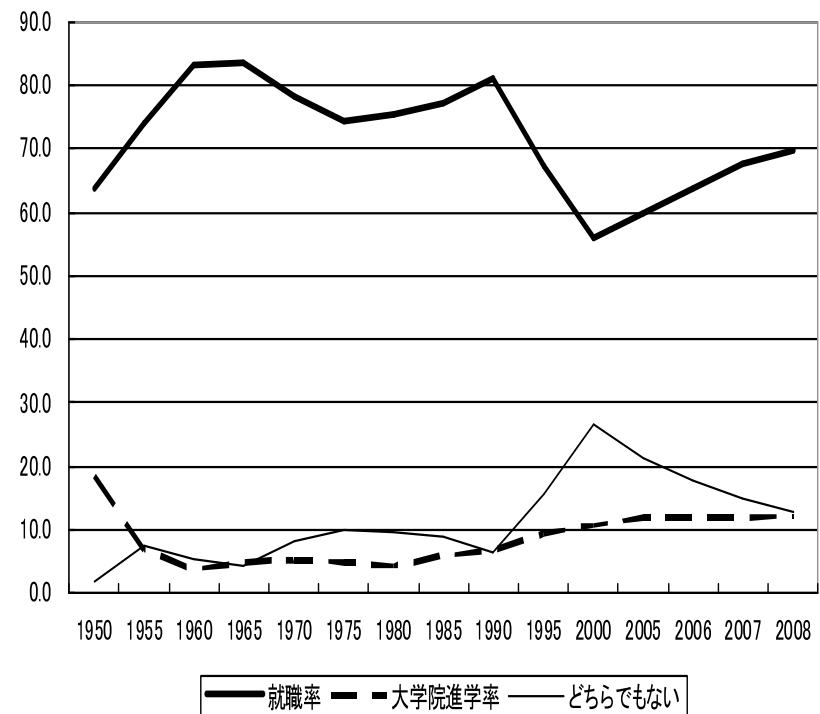
図 高校卒業後の進路 (%)



出所)「学校基本調査報告」(文部科学省)

注)高卒後、大卒後就職も進学もしなかったものには、一時的に仕事についたものが含まれる。

図 大学卒業後の進路 (%)



世代、時代の効果：就職氷河期

- 1991年2月以降の経済後退（バブル崩壊）
- 就職難の時代に突入
1997～1998年 アジア通貨危機

ロストジェネレーション
高卒（1975～1985年生まれ）
大卒（1971～1981年生まれ）

だれが仕事に就けないか： ライフステージと属性の違い

図 年齢階層別 男性失業率の変化(%)

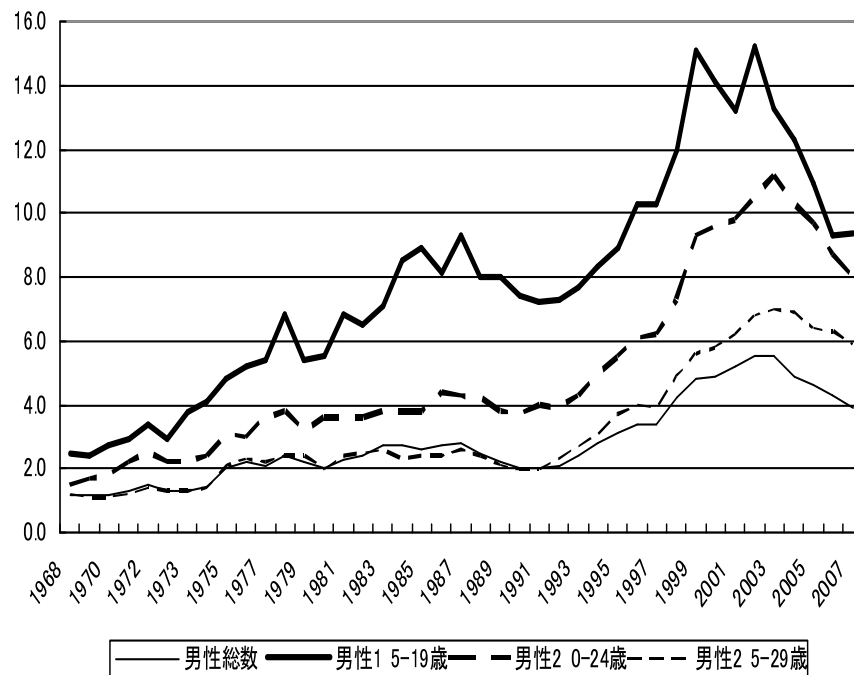
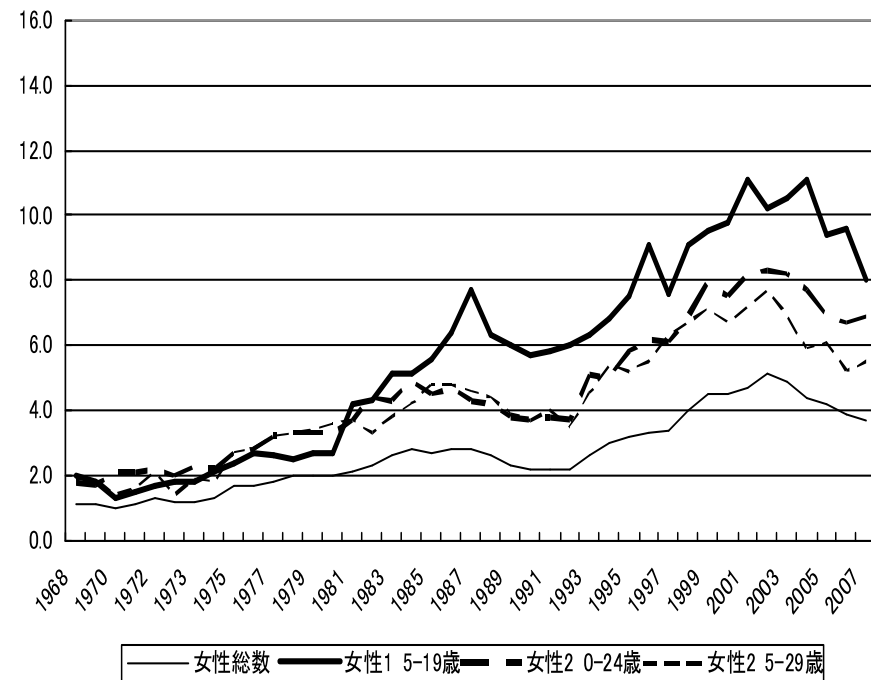


図 年齢階層別 女性失業率の変化(%)



出所) 労働力調査(総務省)

マクロな経済状況と離職率

図 高卒者の在職期間別離職率の推移（％）

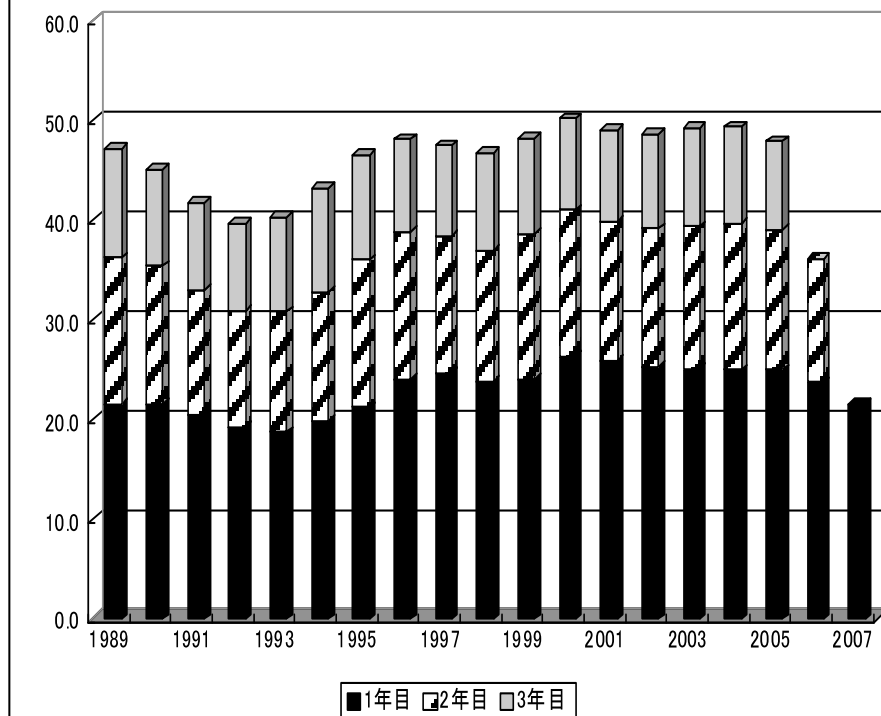
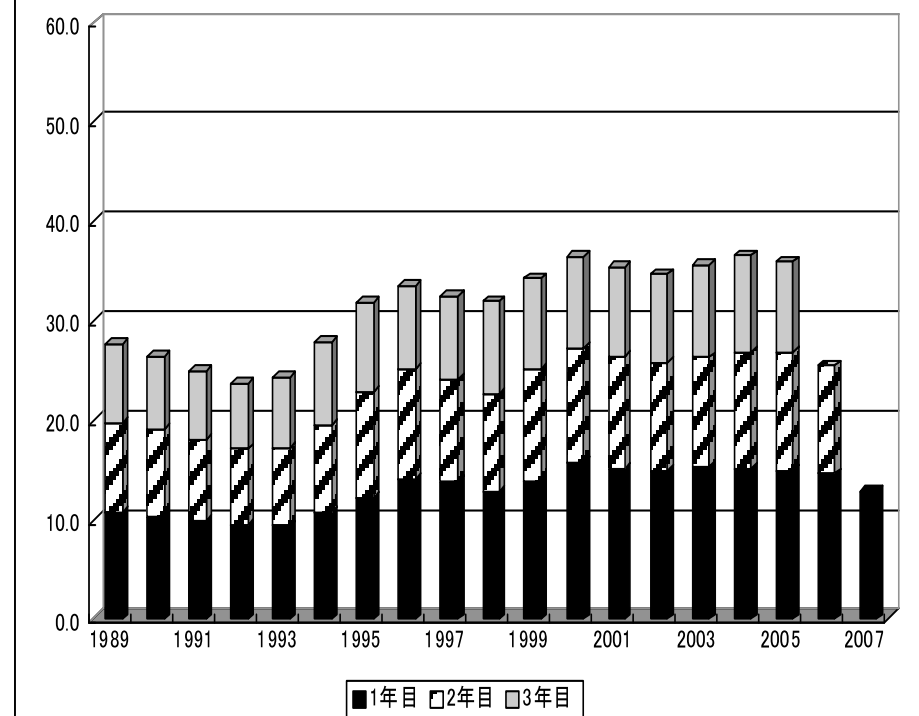


図 大卒者の在職期間別離職率の推移（％）



出所) 新規学校卒業就職者の就職離職状況調査(厚生労働省)

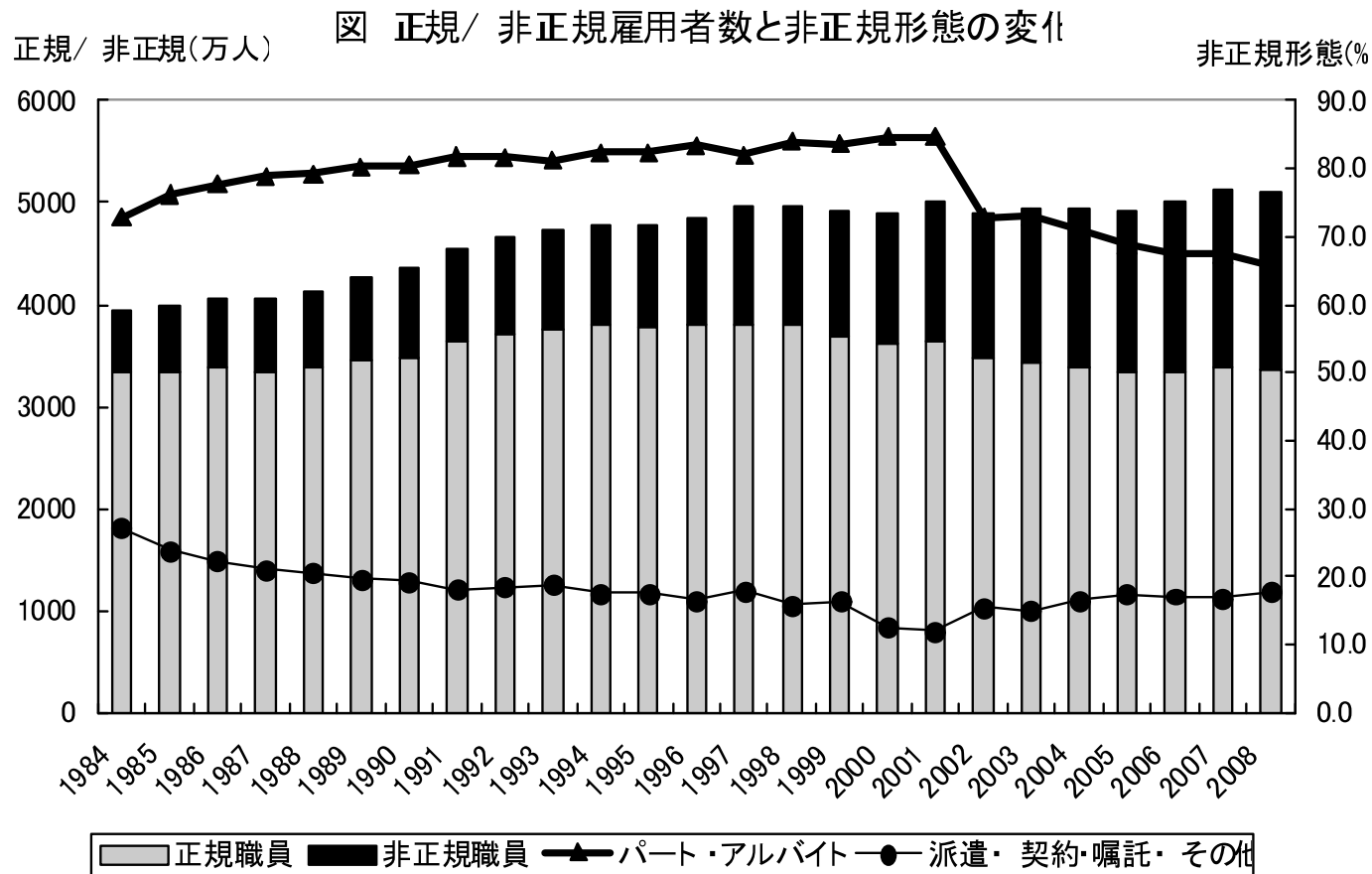
誰が非正規雇用者か？

雇用形態：役員を除く雇用者の勤め先の呼称

- 正規の職員・従業員
- パート
- アルバイト
- 派遣社員
- 契約社員・嘱託
- その他

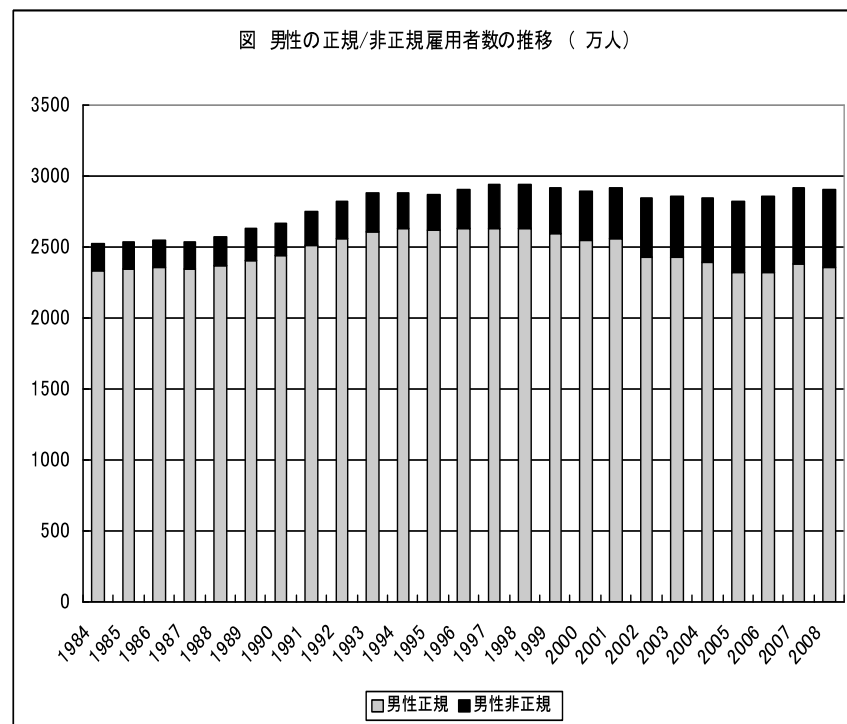
非正規雇用者

非正規雇用者の増加

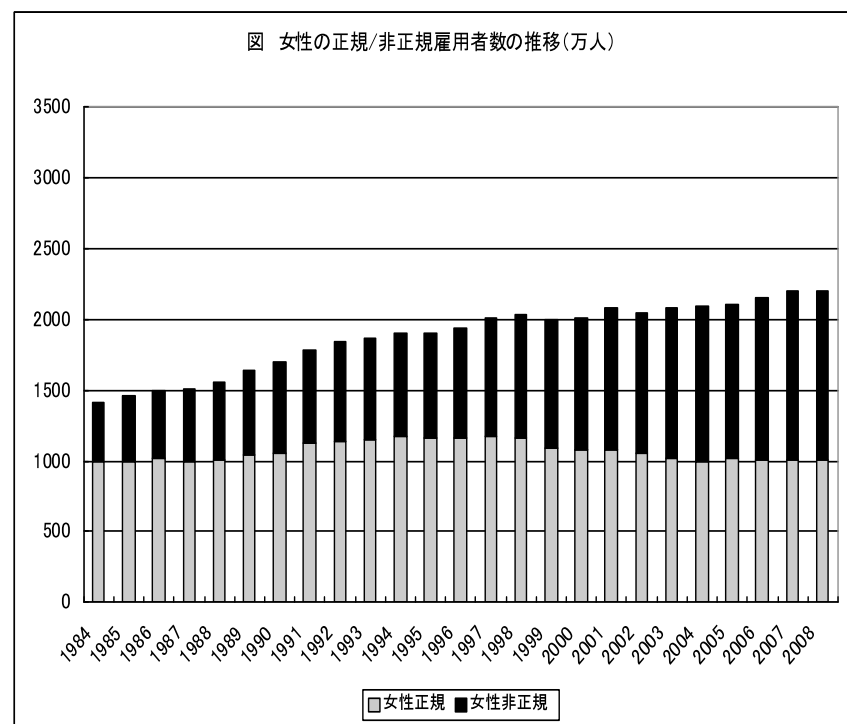


出所) 労働力調査

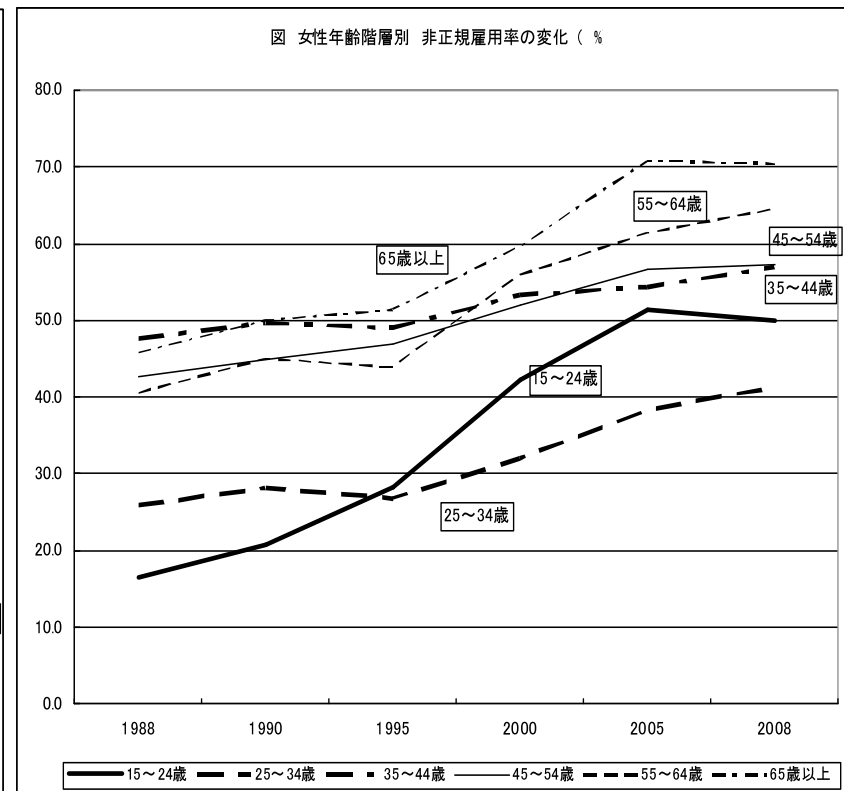
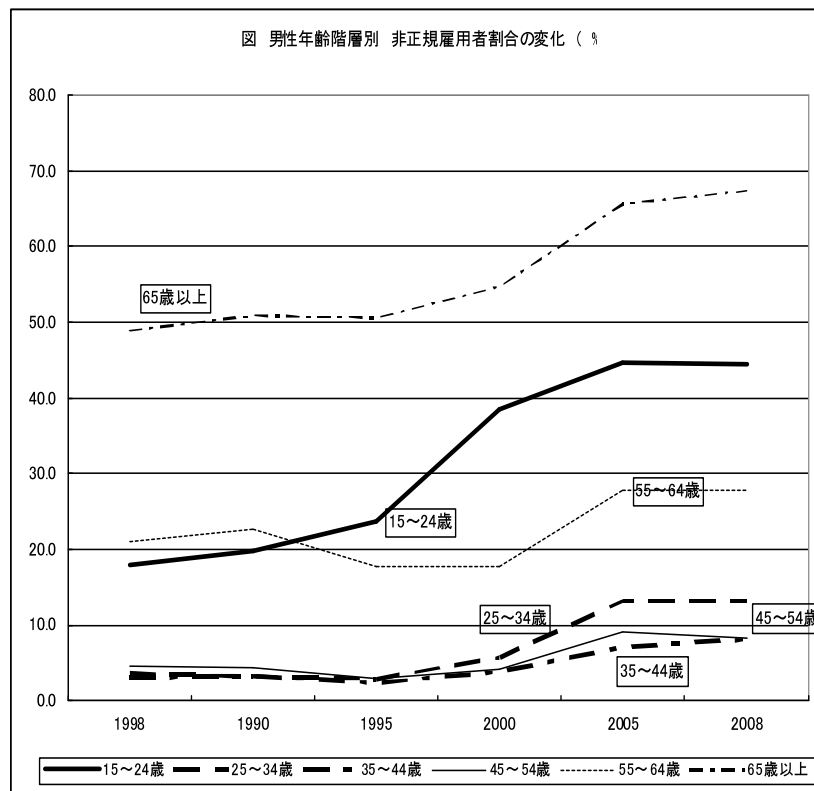
非正規雇用増加のジェンダー格差



出所) 労働力調査(各年)



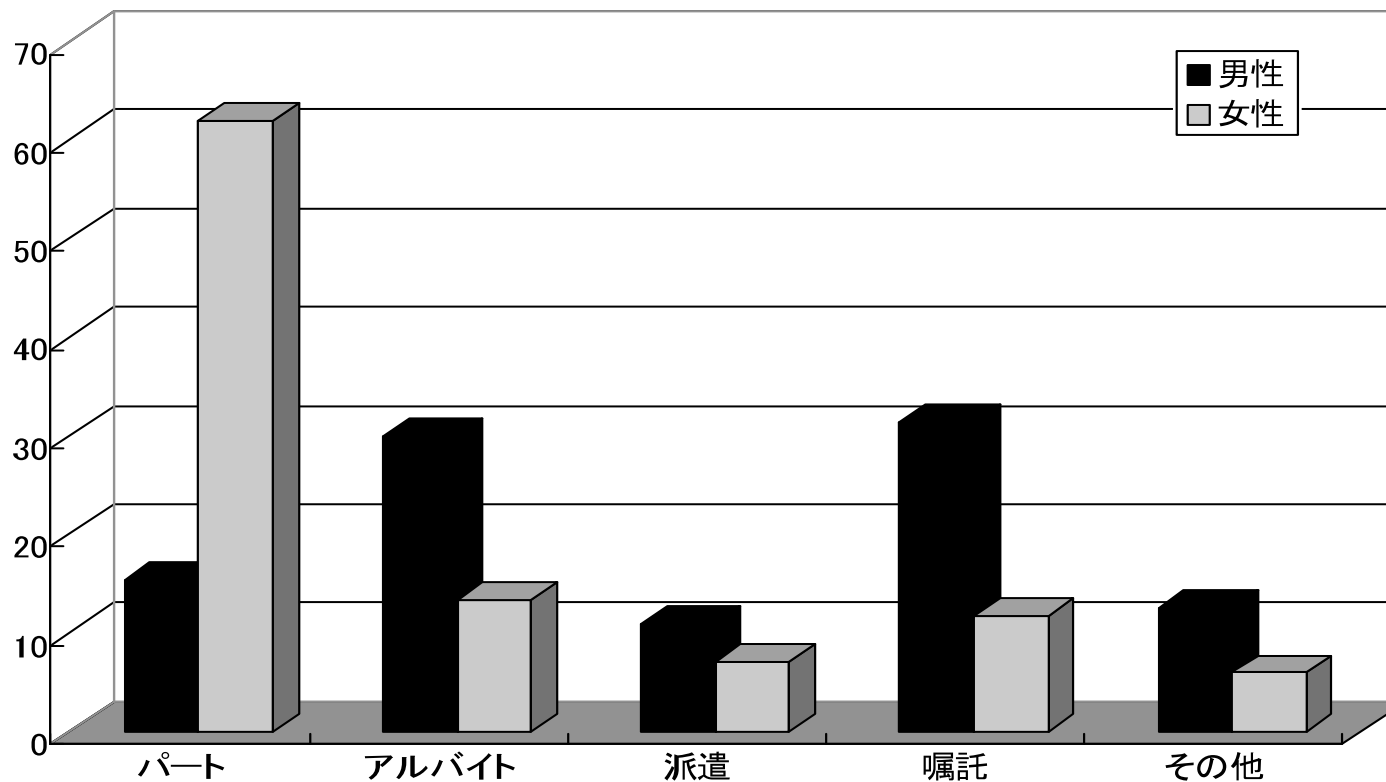
男女、年齢階層によって異なる非正規雇用率



出所) 労働力調査(総務省)

男女で異なる非正規雇用形態

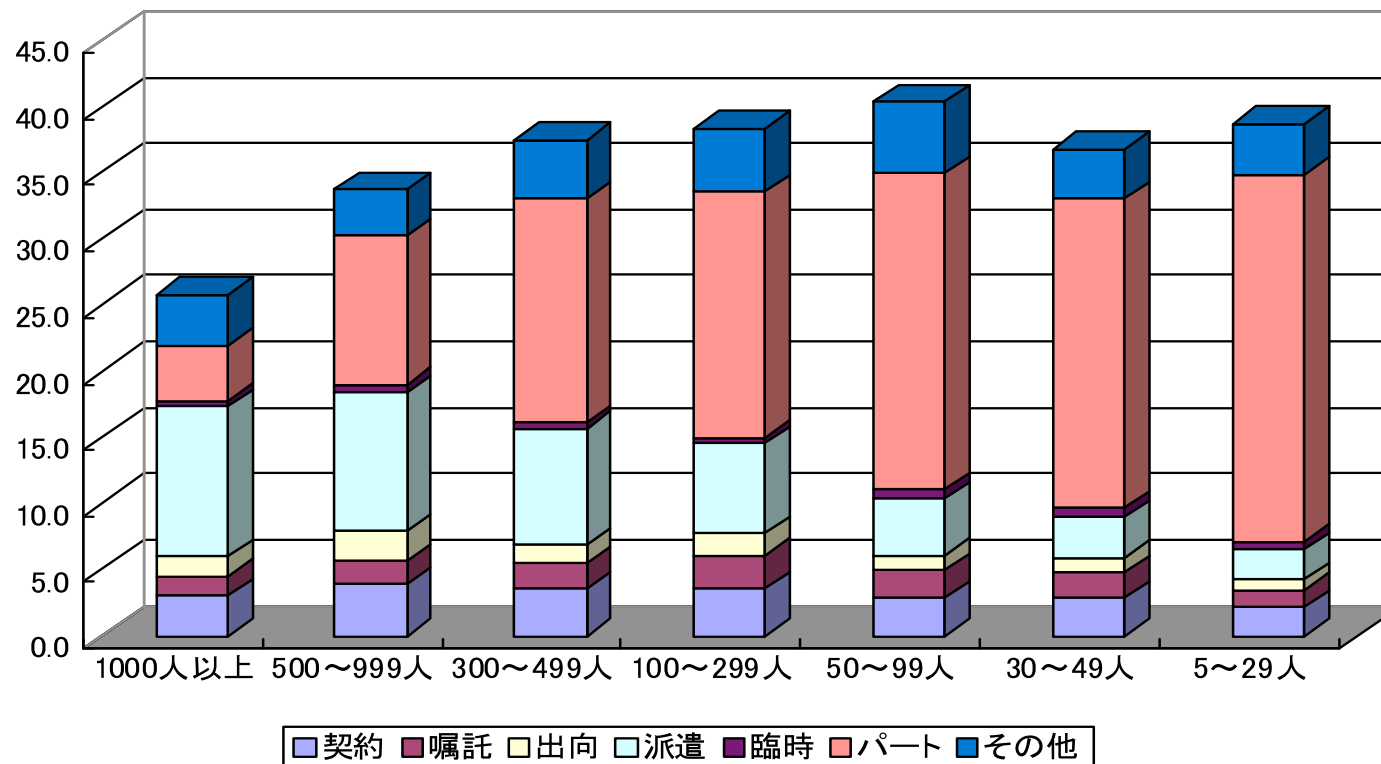
図 男女別 非正規雇用形態分布（％）



出所)「平成20年 労働力調査 結果概要」(総務省)

企業規模で異なる非正規雇用形態

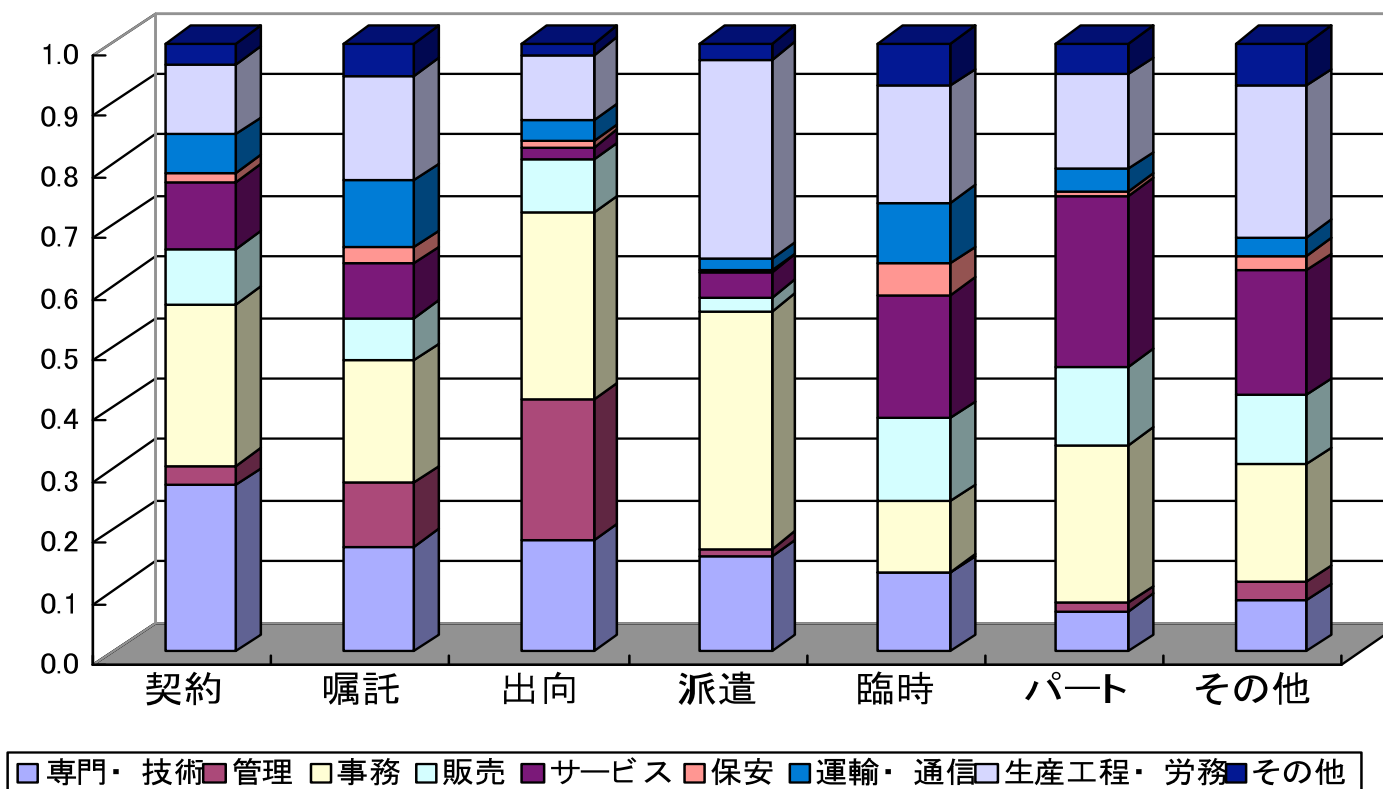
図 企業規模別 正規以外労働者の形態分布 (%)



出所)「平成19年 就業形態の多様化に関する総合実態調査の概況」(厚生労働省)

非正規就業形態によって異なる仕事内容

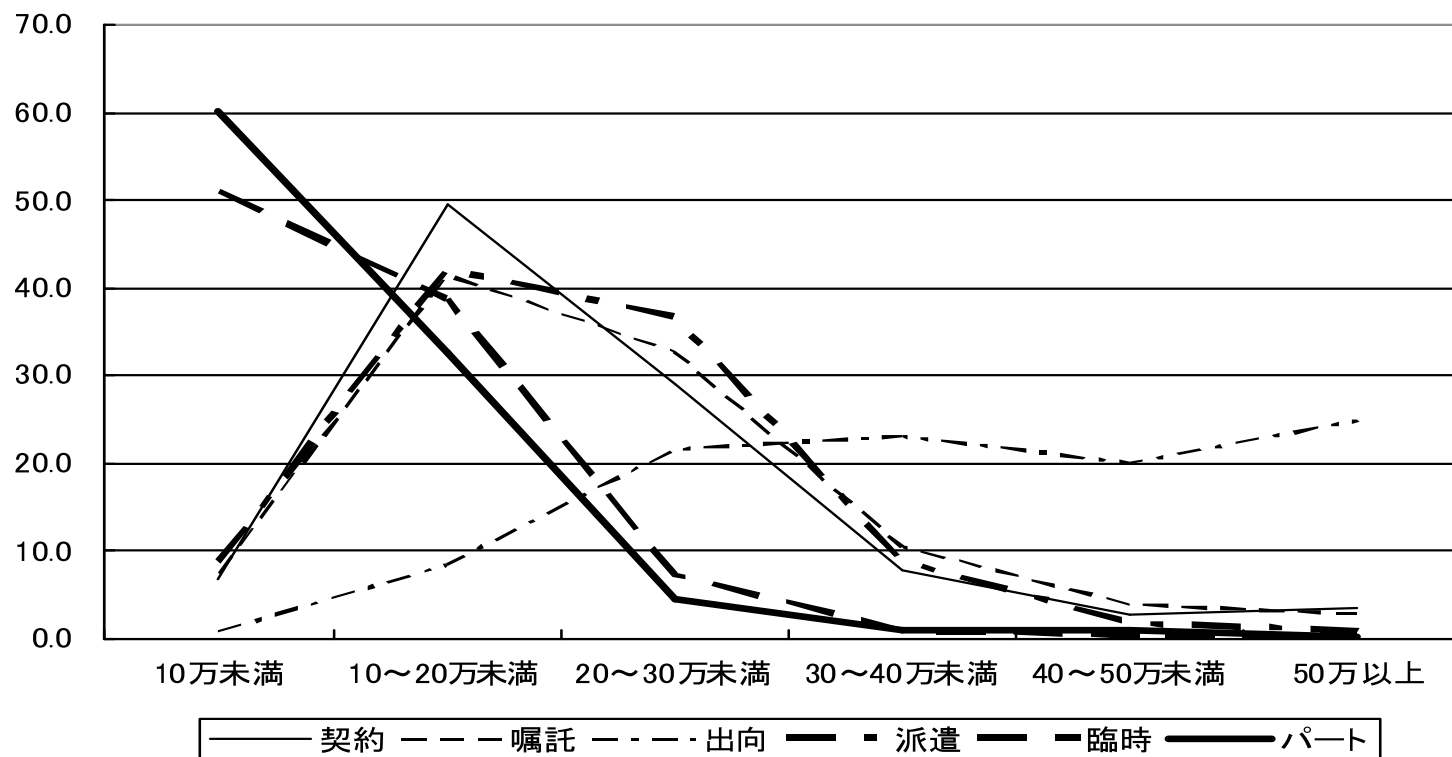
図 非正規雇用形態別 職業分布（



出所)「平成19年 就業形態の多様化に関する総合実態調査の概況」(厚生労働省)

女性非正規雇用者の賃金20万円以上は9.3%、男性の場合は42.2%

図 正規以外就業形態別 9月の賃金総額(税込み)分布 (



出所)「平成19年 就業形態の多様化に関する総合実態調査の概況」(厚生労働省)

正社員以外の労働者がいる事業所は全体の8割、その中でもパートタイム労働者のいる事業所は6割

(「平成19年就業形態の多様化に関する総合実態調査」(厚生労働省))

● 就業形態によって異なる活用理由

- ・契約派遣の活用理由
 - 専門的業務に対応するため(43.6%)
 - 即戦力・能力のある人材を確保するため(38.3%)
 - 賃金の節約のため(28.3%)
- ・派遣労働者の活用理由
 - 即戦力・能力のある人材を確保するため(35.2%)
 - 正社員を確保できないため(26.0%)
 - 景気変動に応じて雇用量を調整するため(25.7%)
- ・パートタイム労働者の活用理由
 - 賃金の節約のため(41.1%)
 - 1日、週の中の繁閑に対応するため(37.2%)
 - 長い営業(操業)時間に対応するため(21.7%)

多様化に価値が介入する

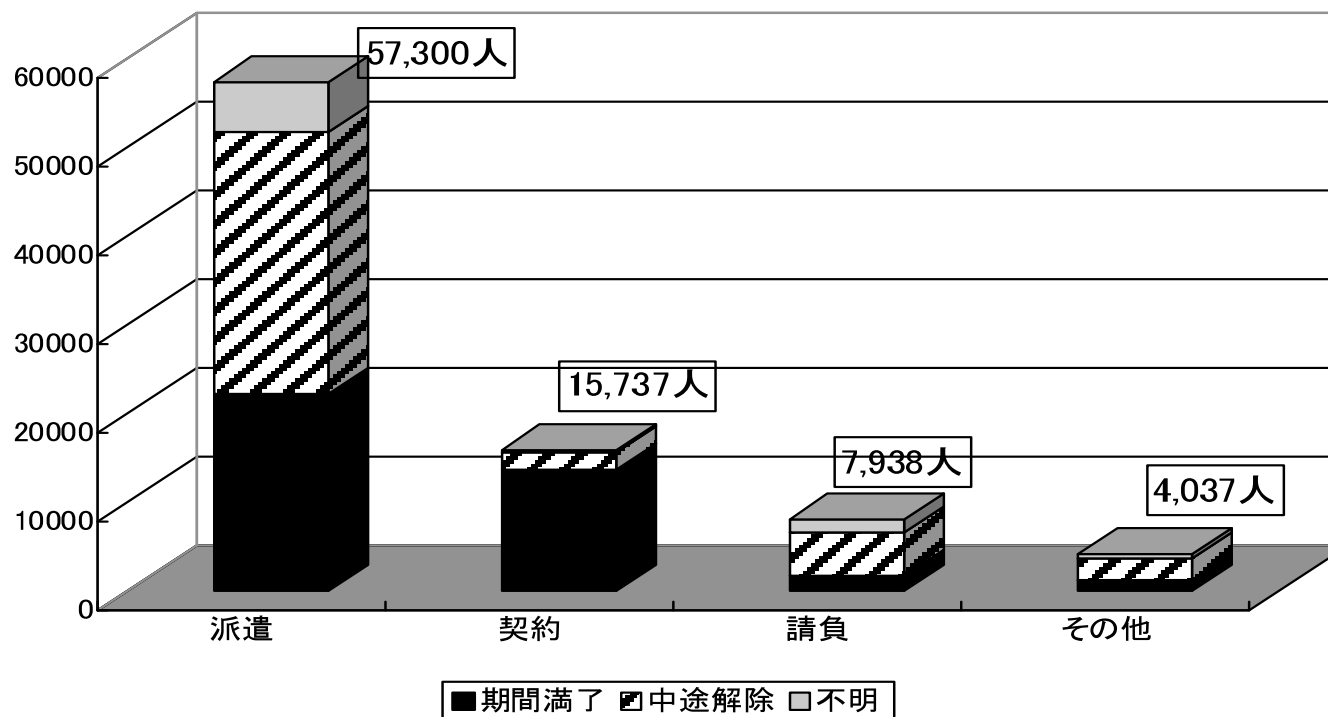
多様であることに良し悪しの判断、価値が付随する

- だれが正規以外の就労に就くのか
正規以外の就労に就くチャンスの違いが特定の
属性とリンク
若年（フリーター）、低学歴者
シングル・マザー、外国人労働者

不平等・格差の存在

非正規労働者を対象とした雇用調整： 全国1,415件、85,012人（2008年12月時点）

図 就業系対別 非正規労働者の雇止め等の状況（人）



出所)「非正規労働者の雇止め等の状況について(12月報告)」(厚生労働省)

注) 全国の労働局および公共職業安定所が、非正規労働者の雇止め等の状況について、企業に対する聞き取り等によって把握した状況

非正規労働であることの何が問題か

安定に欠ける

その日暮らし

将来の見通しが立たない

「ため」がない(湯浅 2008)
貧困に対する低い「抵抗力」(岩田 2007)

就労の多様化を実現させるために

- 雇用政策からの視点
ワークフェア（就労と連動した福祉政策）
- 最低生活保障からの視点
就労と切りはなした、ベーシックインカム
（最低限生活保障）